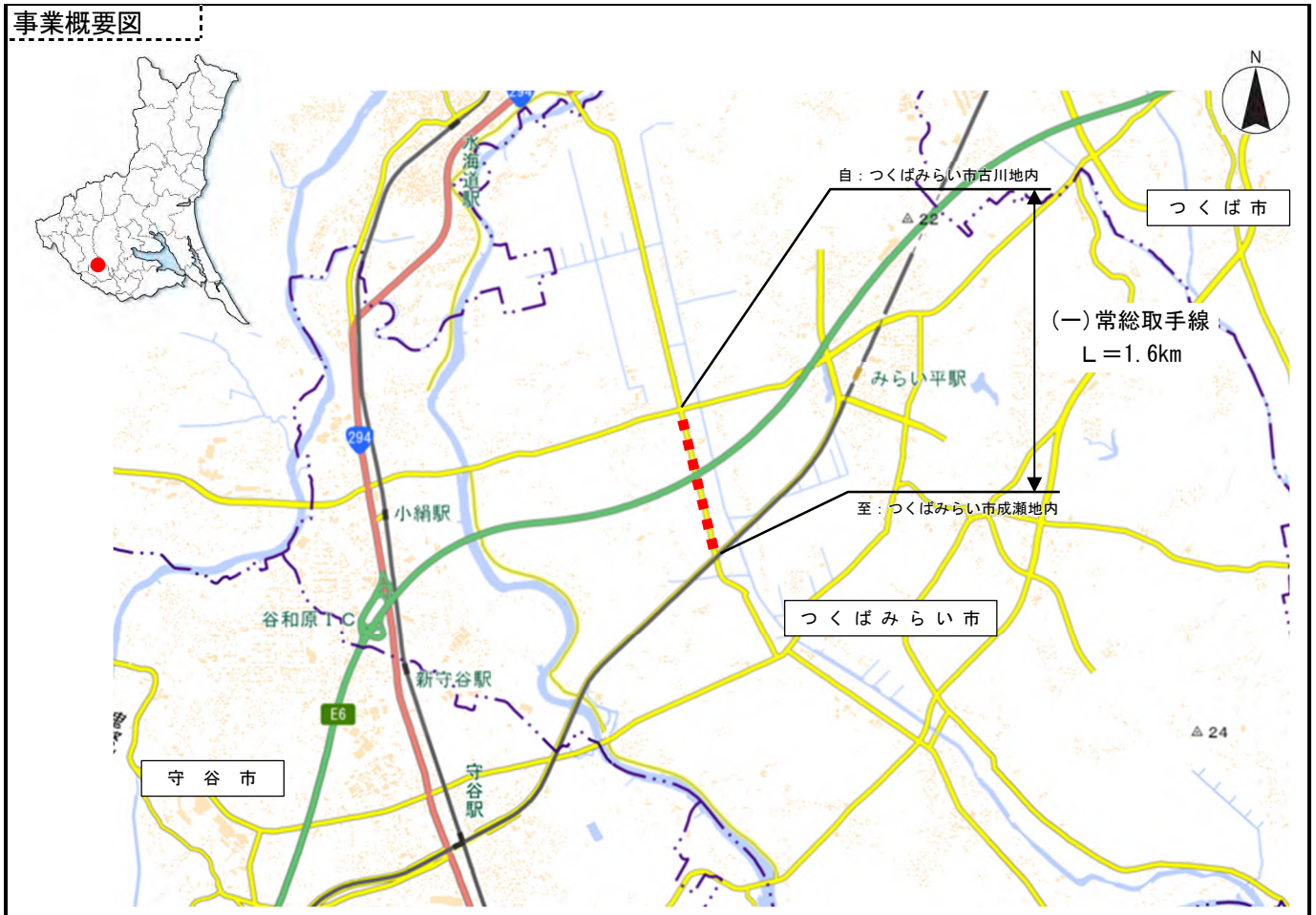


再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：道路局 環境安全・防災課
担当課長名：伊藤 高

事業名：スマートICアクセス 一般県道 常総取手線 （仮称）つくばみらいスマートICアクセス	事業区分：地方道	事業主体：茨城県		
起終点：自：茨城県つくばみらい市古川 至：茨城県つくばみらい市成瀬		延長：1.6 km		
事業概要 一般県道常総取手線は、主要地方道つくば野田線と主要地方道野田牛久線を接続する重要な幹線道路である。 常磐自動車道（仮称）つくばみらいスマートIC が令和元年9月に事業化され、大型車などの交通量の増加が見込まれ、機能強化を図るため、つくばみらい市古川～成瀬までの約1.6 kmの現道拡幅整備を行うものである。				
R2年度事業化	-	R4年度用地着手		
R4年度工事着手	-			
全体事業費	約12億円	事業進捗率		
	約40%	供用済延長		
	- km			
計画交通量	10,900台/日			
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.4	総費用 (残事業)/(事業全体) 5.8/13億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 18/18億円	基準年 令和5年
	(残事業) 3.1	事業費：4.5/12億円 維持管理費：1.3/1.3億円	走行時間短縮便益：17/17億円 走行経費減少便益：0.9/0.86億円 交通事故減少便益：0.3/0.32億円	
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=1.2~1.5 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=2.8~3.4 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.3~1.5 (事業費±10%) 事業費：B/C=2.9~3.4 (事業費±10%) 事業期間：B/C=1.3~1.4 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=3.0~3.1 (事業期間±20%)				
事業の効果等 ・（仮称）つくばみらいスマートICが整備されることにより、大型車などの交通量の増加が見込まれることから、機能強化を図られる。 ・（仮称）つくばみらいスマートIC及び常総取手線を整備することにより、谷和原IC付近の国道294号混雑区間の交通転換を促し、周辺道路の混雑緩和を図られる。 ・緊急輸送道路に位置づけられており、スマートICの整備と合わせて機能強化を図られる。				
関係する地方公共団体等の意見 ・スマートICの事業主体であるつくばみらい市から早期の整備要望を受けている。				
事業評価監視委員会の意見 事業継続を妥当と認める。				
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等 周辺環境等に特に変化はない。				
事業の進捗状況、残事業の内容等 用地取得率約90%、事業進捗率約40%				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 用地取得に不測の日数を要したが、早期完了を目指し、工事を推進していく。				
施設の構造や工法の変更等 土量の過不足について他の公共事業への流用による事業費削減を検討するなどコスト縮減に努める。				
対応方針 事業継続				
対応方針決定の理由 事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。				

事業概要図



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。